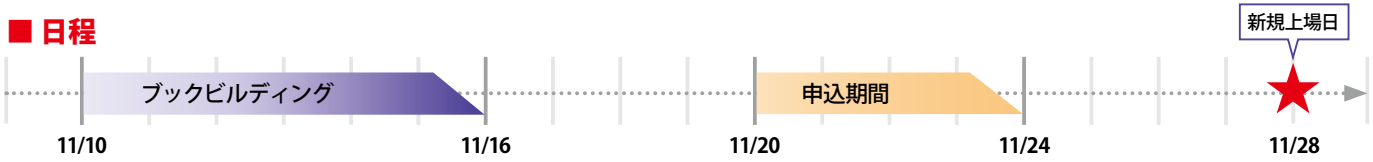


## IPO銘柄 幸和製作所 (7807・JASDAQ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
7807	100株	公募: 15.00万株 売出: 10.82万株 (OA3.87万株)	3,220円~ 3,520円 (12.1倍)	SMBC日興証券

### ■ 日程



## 歩行車やシルバーカーなど主力の福祉用具メーカー

### ■ 事業内容

福祉用具の製造、販売を手掛ける。歩行車、シルバーカー、杖が主力商品。歩行車は、介護保険が適用される歩行補助器具で、歩行時に体重の支えが必要な要支援、要介護認定者の歩行を補助するもの。持ち運びが容易な「テイコブリトル」が主力商品。シルバーカーは1970年（昭和45年）から製造、販売を開始している創業当時の主力商品で、外出用や買い物用途に合わせた商品やファッション性の高い商品などを展開している。シルバーカー、歩行車の生産はグループの中国拠点で主に行っており、杖やその他福祉用具は国内外の委託工場、仕入れ先から仕入れを行っている。福祉用具事業の単一業態。

### ■ 特徴

乳母車メーカーとして1965年（昭和40年）に創業。その技術をもとに当時まだ少なかった高齢者向け製品に参入し、シルバーカーの開発など福祉用具製品の多様化を図ってきた。現在では電動アシスト機能付き歩行車「リトルキーパス」を中心に介護ロボット分野にも力を入れており、「リトルキーパス」は厚生労働省社会保障審議会から日本で初めて介護ロボットとして介護保険のレンタル対象としての認定を受けている。

## アナリストコメント

### ■ 定量分析

18年2月期の連結経常利益は前期比53.0%増の4億6400万円を予想する。要介護2以下の軽度者を中心とした保険給付割合の大幅な引き下げが見送られたことで需要が回復。人員増で経費は増える見通しだが、利益率の高い歩行車の売上増でカバーする。

### ■ 定性分析

高齢化社会の進展を事業拡大の追い風とするビジネスモデルでテーマ性はあるが、特段の目新しさはない。CYBERDYNE (7779) のIPO当時であれば介護ロボット関連として注目される場面もあっただろうが、個人投資家の買いが殺到するようなタイプではなさそうだ。

### ■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は約10億円。新興市場上場案件としては標準的な規模で特段の荷もたれ感も軽量感もない。ベンチャーキャピタル保有株はなく、公開株式以外の株券が市場に流通しにくい構図であることはポジティブ。(小泉健太)

### ■ 類似企業

幸和製作所(7807・JASDAQ)	予想PER12.1倍 (仮条件上限)
ブラッツ (7813・マザーズ)	予想PER12.2倍
パラマウントベッドホールディングス (7817・東証1部)	予想PER17.1倍

### ■ 引受証券

SMBC日興証券、みずほ証券、大和証券、野村証券、SBI証券、いちよし証券、岡三証券、エース証券

## 業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
16年2月期(実績)	4,884	—	217	—	216	—	190.3	—
17年2月期(実績)	4,567	▲6.5	303	39.5	210	▲2.6	185.4	52.21
18年2月期(会社予想)	5,260	15.2	464	53.0	351	67.2	290.8	82.14

※ 16年2月期より連結決算。17年8月に株式分割(1株→10株)を実施。16年2月期および17年2月期のEPSと配当金は遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
16年2月期	113,551	2,541	555	178	489.0	21.8	46.0
17年2月期	113,551	3,087	705	178	621.6	22.9	33.4

※ 16年2月期および17年2月期のBPSは遡及修正

## 大株主上位 (上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	秀一	802,540	61.47
2	玉田 栄一	88,000	6.74
3	玉田 秀明	82,420	6.31
4	玉田 京子	66,000	5.05
5	加藤 学	26,340	2.01
6	東野 順子	13,510	1.03
7	長島 光春	13,280	1.01
8	幸和製作所社員持株会	12,950	0.99
9	北井 邦子	12,100	0.92
10	大井 実	12,000	0.91

## 経営陣

役職	氏名
取締役会長	玉田 栄一
代表取締役社長	玉田 秀明
取締役(営業本部長兼営業2部長)	長島 光春
取締役(営業推進本部長兼海外事業推進部長)	吉田 和正
取締役(管理本部長兼経営企画部長)	大井 実
取締役(開発本部長)	出口 裕司
取締役	藤田 清文
常勤監査役	佐々木 正
監査役	三村 淳司
監査役	小島 幸保

# モーニングスターIPOレポートの読み方

## 特 徴

モーニングスター IPO<sup>(※1)</sup> レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング<sup>(※2)</sup> が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

## 項目説明

### ■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

### ■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

### ■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

### ■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

### ■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

### ■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。